

シベリアアカラマツ 抽出エキス

メラニン抑制を確認

秋田県と坂本バイオ 健康食品応用に期待

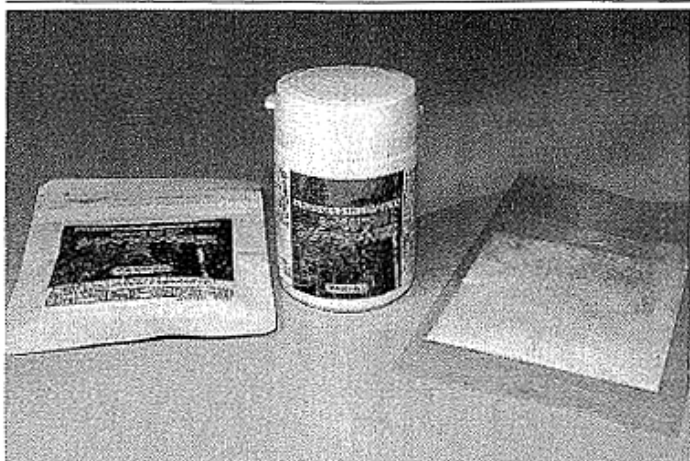
秋田県総合食品研究所とバイオベンチャー企業坂本バイオ(秋田市、坂本賢二社長)は、ロシアのタイガ林を構成する主要樹種「シベリアアカラマツ」のエキスが、メラニンの生成を抑制する効果があることを突き止めた。シミを予防、改善するための美白食品や医薬部外品などへの応用が期待されている。

両者の共同研究では、樹木の形成層から特殊な手法で抽出されたエキスが、紫外線を浴びるとメラニン色素を作り出す酵素「チロシナーゼ」の活性を阻害することを確認した。メラニン生成機能を抑制することによって肌の白さが保たれ、シミの発現を抑えることも可能になるという。

ロシアでは古くからシベリアアカラマツをせんじて飲んでいた歴史があり、それに注目した科学者が一九六〇年ごろから研究に着手。以降、抗酸化作用が強く、美容、毛細血管や胃、肝臓の保護に効果があるなど、さまざまな研究成果が発表されている。ロシアでは既に健康食品や医薬品としても利用されている。

同社はシベリアアカラマツエキスの総発売元となり、今年三月にはサプリメントの発売を開始。同時期にまとめたエキスの機能性に関する共同研究で、メラニン生成の抑制に伴う美白効果を確認した。ロシアの研究成果によると、脳血管疾患の症状改善や二日酔いの症状軽減なども

期待できるといふ。県総合食品研究所と坂本バイオの共同研究は二〇〇〇年に始まった。現在は、他の民間企業や県立大も交えた産学官連携の「化粧品素材開発プロジェクト」なども手掛けている。



メラニン生成機能を抑制することが分かったシベリアアカラマツエキスの製品